

水環境保全への取組

水質浄化に取り組む現場を訪問



わたしの
名前はアクト!
環境を守るための
活動を
いろんな方に
聞いてみました!

現場取材&インタビュー



住民の窓口となって、暮らしの中に根付いた 水環境保全に取り組む「地方自治体」

アクトさん

埼玉県
環境部 水環境課
平田さん

綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦!

埼玉県と東京都を流れる綾瀬川は国土交通省の水質調査で昭和55年から15年連続ワースト1の記録をもつ日本一汚れた川として有名です。近年は地域の取組や市民団体の活動の効果もあり、ワースト1から順位が上がっていたのですが、平成16年度に再びワースト1になってしまいました。そこで、この結果を受け、平成18年度に「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」の取組を始めました。

流域の住民や企業が丸となった取組!

これは、例えば工事をして水質浄化を図るといふ、行政だけではなく、住民、団体、企業と流域が丸となって水質浄化に取り組むものになります。具体的な活動としては、地元や学校に対し、河川浄化団体が講座を開いたり、行政が排水源対策として浄化槽の講習会の開催や啓発のため「家庭の生活排水についての心がけ」チェックシートを配布したりしています。

県がNPO基金を設立!

こうした活動は、「綾瀬川清流ルネッサンス」などでも行われていますが、特徴的なのは、県がNPO基金を設立し、企業に対し寄付を募り、それが各団体の活動に充てられるというしくみの下、行われているところです。

綾瀬川清流ルネッサンスって何?

綾瀬川清流ルネッサンスとは、国土交通省や流域の地域協議会が綾瀬川とその支川である古綾瀬川、伝右川、毛長川などをきれいにするための活動です。平成7年度から「綾瀬川ルネッサンス21」を実施し、大幅な水質改善が進んだものの、依然として「魚が見えない」、「ゴミが浮遊している」などの問題が残っています。そこで、流域の地域協議会はより良好な水環境の再生を目指そうと、次期行動計画「ルネッサンスII」を平成15年2月に策定し、さらに浄化活動を行っています。



富山県(砺波市)
下水道課 下水道建設係長
竹部進さん

浄化槽に関して砺波市ではこんな取組を行っています

平成14年度～平成18年度の5年間、公共下水道の整備が困難な山間部(梅檀山地区)で浄化槽市町村整備推進事業を行い、9割方の世帯に浄化槽を設置しました。平野部においては、下水道の整備が見込めない地区について浄化槽設置整備事業により、毎年約70基の整備を見込んでいます。

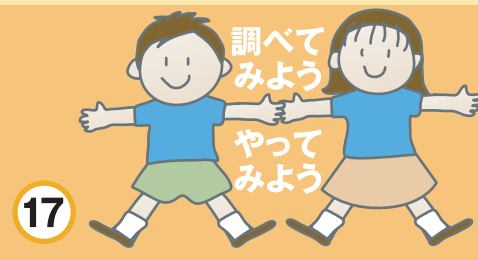
「浄化槽の日」に合わせて広報誌に記事を掲載しています

毎年10月1日の浄化槽の日に合わせて「広報となみ」に浄化槽の維持管理の大切さや浄化槽への補助金等について掲載しています。



浄化槽整備によりホタルが多く見られるようになりました!

梅檀山地区での浄化槽市町村整備推進事業により、同地区の主な水源である和田川周辺でホタルが年々多く見られるようになってきています。また、平野部での浄化槽設置整備事業により、夏場、団地周辺等の流れの悪い排水路での蚊やボウフラ発生による苦情や問い合わせが聞かれなくなりました。



調べて
みよう
やっ
て
みよう

自分の住んでる街(区市町村等)で行われている浄化槽の説明会を調べてみよう!
浄化槽を整備している街や村では、説明会を実施していることがあります。どんな説明会があるのか、調べてみましょう!

自分が住んでるところ

街の役所の名前・担当

どんな説明会?(説明会の名前・開催日時・場所)

説明会の名前

開催日時

開催場所

どんなことがわかるの?

水環境保全への取組

水質浄化に取り組む現場を訪問

いろんな街で、みんなががんばってるんだね!



住民の窓口となって、暮らしの中に根付いた水環境保全に取り組む「地方自治体」

アクトちゃん

村の浄化槽の普及率は96%!

下條村では、昭和62年度から5ヵ年計画で簡易水道工事が進められましたが、起伏が多く住民が散在している地域性から総額29億8千万円の事業費を要し、借入額が12億2,450万円ほどになりました。そのような経済的な面と水環境保全などの観点から浄化槽を村の生活排水対策として採用することに決め、現在では96%の世帯に普及しています。村を通る河川は7本ありますが、住民から汚れていた川がキレイになったとの声が数多くかれます。ホタルのでるところもあり、浄化槽の水環境保全への効果を実感しています。

長野県(下條村)
下條村振興課
宮沢吉博さん

浄化槽の法定検査の費用を全額村で負担しています!

浄化槽の法定検査の7条検査(設置後3~8ヵ月に行う水質検査)と11条検査(年1回行う水質検査)の費用は、設置者が負担しなければいけません。下條村では全額村で負担しています。その効果があつてか、法定検査の受検率が65%と他の市町村より高めになっています。また年4回行う保守点検の費用(2万1千円)の半額を村が負担しています。

豪雨に負けない浄化槽

私は以前小田原で下水道工事をしていた経験がありますが、市街地などでは豪雨により下水管がパンクしマンホールを持ち上げて、下水が道路に流れ出ることがありました。浄化槽は雨水は入らない仕組みとなっているため、豪雨の影響は受けません。異常気象による豪雨が増えている今の時代に合っているように思います。

<浄化槽導入の理由>

1. 起伏が多く、下水道の管路を通るのが難しい。
2. それぞれの地域で水量が確保される。
3. 経済的にも時期的にも設置者の事情に合わせて推進できる。
4. 河川の自然浄化能力が活用できる。
5. 井戸水や河川等の浄化対策として大いに期待できる。
6. 設置にかかる期間が短く、投資効果の発現が極めて早い。
7. 恒久的な生活排水処理施設として評価が得られている。
8. 設置者個人の自己管理・自己責任が徹底され、地元業者の育成もできる。
9. 事業が単年度ごとに処理され、繰り越すことがなく、財務体質を健全な形で維持できる。
10. 地震など災害に対し復旧が迅速でコストも少なくすむ。
11. 下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽の3つを使い分けることによる維持管理費の不公平感がない

現場取材&インタビュー



秋田県(能代市)
能代市環境部 環境企画課 環境企画係
主任 穴山和照さん



広報誌

環境への取組

能代市の旧二ツ井地区は環境にやさしい自転車のまちづくりとして自転車利用推進、浄化槽の普及活動、水質浄化の取組が評価され、平成17年度に環境省より「循環・共生・参加まちづくり表彰」に表彰されました。自転車に関しては、道路の整備、不要な自転車のリサイクル、誰でも使える共用自転車「チャリンジャー」の開発を行い、生活に密着して自転車が利用されています。

水環境保全について

地域の資源である秋田杉を使った炭、鉱物のゼオライトを使用した水質浄化への取組を産学官連携で行っています。現在は開発、試験、実証を進めていて、将来的には商品化し、環境対策と産業振興を図っていきます。二ツ井地区は下水道を整備するには面積が広く、莫大な経費がかかり、各地区に延ばせないという町の状況から、平成7年より浄化槽の整備・普及を進めています。浄化槽の設置工事の費用を負担し、その後の点検も格安で行っています。市の合併以前の広報誌では、毎月浄化槽のコーナーを設けて、維持・管理や点検のお知らせ、利用者の声などを載せていました。また毎年10月ごろには、町のイベントにおいて浄化槽の模型の展示やパンフレットの配布、相談コーナーを設け、普及活動を行っています。こうした活動の多くは合併後も継続して行われています。



合併処理浄化槽



浄化槽設置
相談コーナー